

防災・減災と 男女共同参画

地震
水害
噴火
…

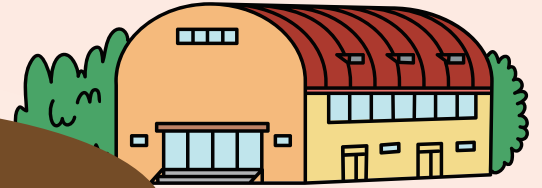
いつ起こるか分からない災害

大規模災害が発生し
そのまま「避難生活」が始まったとき
わたしたちが直面する
“性別”にまつわる
さまざまな「困難」とは…

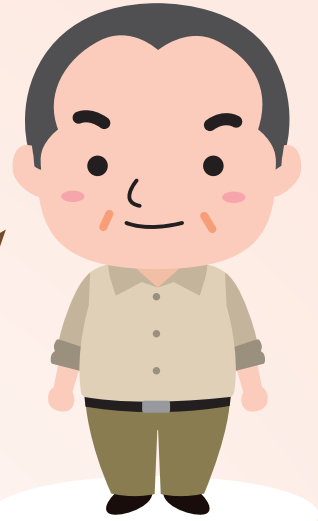


だれもが安心・安全な避難生活のために
わたしたちがいまからできることについて
考えてみませんか？

実際にあったこと...①



この避難所ではみんな
家族みたいなものだから、
間仕切りなんかいらさないよね



みんなでがんばろう！

避難所
リーダー

↑
とても一所懸命に
いろいろやってくれるいい人！

がんばるけど...

せめて少しでも
プライバシーがないと
つらい...

そういう問題じゃ...

でも言えない...



避難所では、不特定多数の住民が限られたスペースで共同生活をします。

性別や年代はもちろん、高齢者世帯から赤ちゃんのいる子育て家庭、ひとり暮らしの方、ほかにも障がい者や外国人、性的少数者、帰宅困難者など様々な人が一緒に過ごす避難所生活。誰もが公平に、そして皆が安心・安全に暮らせる避難所にするにはその「多様性」に配慮した空間・ルールづくりがとても大切です。

たとえば...

居住スペース

高齢者や病人のケア、赤ちゃんの授乳、夜泣き...
他にも障がい者や要介護者、一人暮らしの女性や妊産婦など、
状況に配慮した分けが必要！

それでみんなが快適に



更衣スペース (男女)

女性に限らず、人目がある場所での着替えはストレスです。
東北ではやむを得ず布団の中で着替える女性もたくさんいました。
可能なら、性的少数者や障がい者も性別に関わりなく使用できる
「多目的スペース」の設置も！

男性にだって
イヤな人はいるのです

女性専用の物干し場
トイレ環境など

女性の衣類、特に下着類は
人目の少ないところに干したいもの。
そして、女性トイレの環境は犯罪の発生につながることも...。
照明や通路、見回りなどを含めて
女性や子どもの安心・安全に配慮を。



大成功モデルです！

日本発の「女性専用スペース」

「ビックパレットふくしま」避難所

東日本大震災発生直後、仕切りもなくザコ寝の状態で過ごしていた大規模避難所内に、女性のための専用スペースが開設されました。情報交換や相談の場としてだけでなく、着替えスペースなども設置され、女性たちの拠り所として様々な支援の拠点となりました。



実際にあったこと…②



とても感じがいい人～
なのは安心なんだけど…



下着や生理用品が必要だけど
これだともらいに行きづらい…

支援物資には、「立場により配慮が必要なもの」があります。

避難者への支援物資には、一般的なものとある立場の方に必要なものの2種類がありますが、特に混乱期はそのニーズの把握や配給時の配慮が不十分になることも多くあります。物資の配給には「みんなに公平に」に加え、「みんなが安心・快適に」という視点も必要です。

一般的な支援物資

立場別に配慮が必要な物資

◆食料や生活必需品
水・主食（米やパンなど）・副食・調味料
食器・調理器具・衣類（下着）・寝具
歯ブラシ・石鹸・洗剤・衛生用品など

◆資機材類
間仕切り・仮設トイレ・発電機・給水タンク
バケツ・ブルーシート・軍手など

たばさげ…

◆乳幼児
粉ミルク・ほ乳瓶（お湯）・離乳食
おむつ・おしりふきなど

◆女性
生理用品・生理用ショーツ・おりものシート
ハンド（リップ）クリーム・化粧品など

◆要介護者
成人用おむつ・介護食など

◆高齢者
入れ歯洗浄剤・補聴器用電池など

物資の受入れや配給の担当者には必ず男女双方を！
（立場別リーダーから定期的に意見を聞けるような体制づくりも重要です）



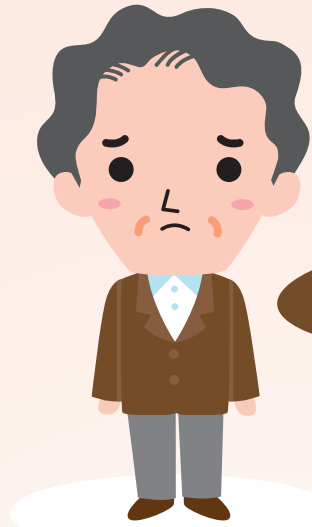
ハンドクリームや化粧品は
ぜいたく品ではありません



避難所での毎日の炊き出しや洗濯などは、なぜか女性が中心に担うことが多いのが現状です。日々の家事労働でその手は荒れ、痛みとともに大変なストレスを抱え、別の感染症の可能性も…。また、女性にとってスキンケアやお化粧品は生活の一部であり、とても大切なもの。「日常を取り戻すこと」が「生きる力」となる避難所生活においては大変重要な意味があるのです。



実際にあったこと...③



性犯罪？
そんなのこの避難所
であるわけじゃない！

見回りもしてるし...



だれに相談していいか
わからないし、
言っても信じてもらえない...

被害にあったなんて
言い出せない...



自分が被害者だって言わないと
助けてくれない...

被災地での性犯罪や暴力は、実際に起きています。

2013年「東日本大震災女性支援ネットワーク（当時※）」より発表された『東日本大震災「災害・復興時における女性と子どもへの暴力」に関する調査報告書』によると、夫・交際相手からの暴力（ドメスティック・バイオレンス：DV）をはじめ、強かん、わいせつ行為、ストーキングやセクシュアル・ハラスメントなど、多種多様な形態の暴力があったと報告されています。

※2014年に解散。現在は「減災と男女共同参画 研修推進センター」にて引継

同報告書より

避難所で、夜になると男の人が毛布の中に入ってくる。仮設住宅にいる男の人もおかしくなって、女の人をつかまえて暗い所に連れて行って裸にする。周りの女性も「若いから仕方ないね」と見て見ぬふりをして助けてくれない。
(20代女性)

被害に遭ったとしても、それを訴えることは被害者にとっては平時でも非常に難しく、大変なこと。被災時は、「そこしか居場所がない」「生きていけない」という状況のなか、さらに口をつぐんでしまうようになることも想像に難くはありません。

避難所で深夜、強かん未遂。「やめて」と叫んだので周囲が気づき未遂に終わった。加害者も被害者も被災者だった。110番通報したので警察官が事情聴取したが、被害女性が被害届を出さなかった。(50代女性)

ほかにも、被災前からのDVがひどくなったり、ボランティアの女性が被害に遭った例も。また、加害者が顔見知りである場合や、被害者が女性に限らず男性の場合もあるなど、その状況は多種多様です。

女性をはじめ、誰もが安心して「相談」できる体制づくりが重要です。

そして、「いかなる犯罪も許さない！」という地域や避難所のリーダー（特に男性）の毅然とした姿勢も、抑止につながります！



防災・減災と
男女共同参画

© frente-mie_2015

実際にあったこと…④

こういうときは、やっぱり
男性がいると頼りになるわ！

男の自分が
みんなを引っ張って
いかなければ

でも、家も、家族も
災害で失ってしまって…

最近どうしても
お酒が飲みたくて…

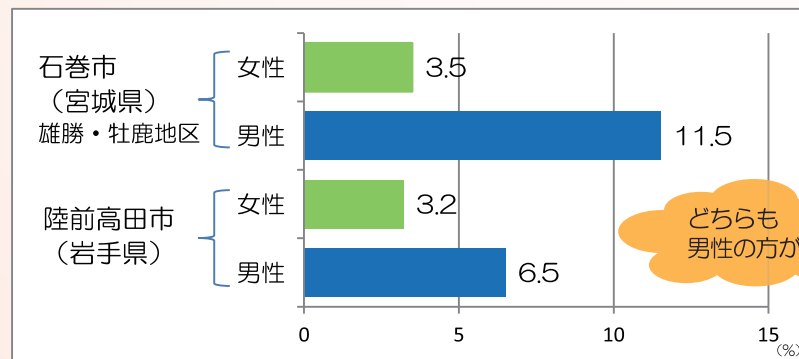
仕事なくなったなんて
とても言い出せないし…

男性だって、「被災者」です。

防災・減災の活動や避難所の運営などは地域の男性が中心となって担うことが多い現状ですが、その男性も同じように、被災によって辛い思いをしています。しかし、男性は「男は強く、たくましくあるべき」と、悩みなどを周りに相談せずその困難を自分ひとりで抱えてしまう傾向があります。

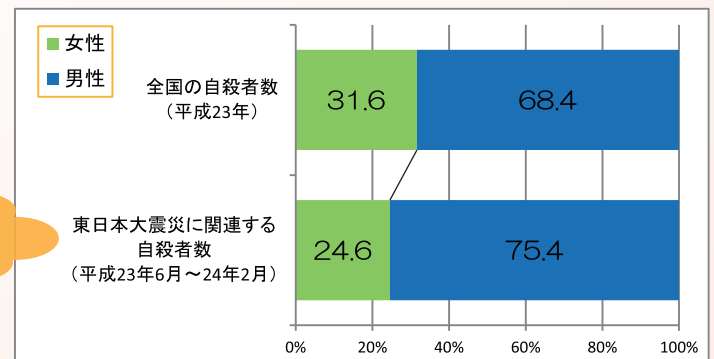
こんなことも…

飲酒量が増加した人の割合（陸前高田市、石巻市）（男女別）



どちらも男性の方が高い

東日本大震災に関連する自殺者数の男女別割合



内閣府「男女共同参画白書（平成24年版）」より作成

男性ならではの困難を防ぐためにも…

どちらかの性別や個人に負担が偏らないよう
役割を固定せず、「交代制」にするなどの
配慮が必要です！

災害は、誰の身にも同じようにふりかかります。

まちで暮らす様々な立場の方の困難やニーズに向き合いきましょう。



**防災・減災と
男女共同参画**

誰もが安心・安全な 「避難所」のために…

女性や障がい者など
様々な立場に配慮された避難所は、
男性にとっても健常者にとっても
すべての人が暮らしやすい避難所です！



気を付けることは…

避難所の管理責任者には、
男女両方が就任する。

開設時から、トイレや
更衣室・物干し場などを
男女別で設置する。

避難場所



女性や子ども、若者や高齢者、妊産婦
障がい者など、多様な意見を踏まえた
ルールづくりを行う。



支援物資のニーズ把握や配給
時にも、様々な立場に配慮を。

弱い立場の人が暴力や
性被害を受けないように、
十分に注意を払う。

でも、まず大切なのは…

「男性だから、女性だから」などの
思い込みで判断したり、
ものごとを決定したりしないこと



男性だから「リーダー」に
女性だから「炊き出し係」に、ではなく
平時から性別に関わらずすべての人が個性や能力を生かす“まちづくり”
＝「男女共同参画社会の実現」が、非常時にも有効です！